

# Funehiki High School News vol.121

## 新 **ATTENTION!** ~がんばる船高生~ 第1回 家庭クラブの皆さん

8月5日、三春町のコミュニティ福島(福島県環境創造センター交流棟)で開催された「環境教育フェスティバル」。その一角のブースで、おからを使ったスイーツが販売されました。スイーツの種類は2つで、マカロンとブラウニー。大勢の来場者がこの「おからスイーツ」を買いたいと、当日用意されたものは完売しました。

そこは船引高校家庭クラブのブース。クラブの生徒が、PRと販売に忙しそうに動き回っていました。じつはこのスイーツ、船引高校と旬大畑屋食品(三春町)のコラボで生まれたのです。船引高校家庭クラブは昨年、おからを使ったスイーツを作ろうと、大畑屋食品と一緒に試行錯誤を繰り返してきました。その後、今年6月ようやくマカロンとブラウニーが完成し、このたび販売するまで至ったのです。

家庭クラブ会長の吉田沙織さん(3年、都路中出身)は、スイーツの開発にずっと携わってきました。「廃棄量が多いおからを使って、どんなスイーツが作れるか、みんなで意見を出し合いました。その後、大畑屋さんと一緒に試食会を重ね、マカロンとブラウニーに絞りました。商品名やパッケージは私たちが考えたのですが、みんなのアイデアをまとめるのは大変でした」



▲環境教育フェスティバルで。吉田会長は前列右から3人目。

と振り返る吉田会長。「試食会は楽しかったですね」と、うれしそうな笑顔で話してくれました。

好評だった「おから in ブラウニー」は、大畑屋食品で購入できます。ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。

好評だった「おから in ブラウニー」は、大畑屋食品で購入できます。ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。

### ◆「チーム船引」の一員に

7月28日、中学3年生を対象とした体験入学を開き、教育活動全般の説明や部活動の体験入部などを行いました。生徒の体験発表では、本校の特色であるデュアル実習の説明、ドローンの空撮動画と飛行実演などが行われました。参加した中学生たちは、生き生きと活躍する先輩たちの姿に熱心に見入っていました。

中学生の皆さん、来年は「チーム船引」の一員となって、一緒に頑張りましょう!



### ◆ドローン特別講座が始動

8月1日、ドローン特別講座を行いました。昨年度と同じく慶應大学の南先生を講師にお招きし、これからのドローンの可能性について講義いただきました。ドローン操作の練習では、昨年度の経験者である2・3年生が、初めて操作する1年生に教えました。初めは遠慮がちだった1年生も、次第に難しい操作に挑戦するようになり、「難しいけれど楽しい」といった声が聞かれました。課題をクリアするため、今も生徒たちは積極的に練習に励んでいます。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233  
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...[funehiki-h@fcs.ed.jp](mailto:funehiki-h@fcs.ed.jp)

## 船引南中へ思う



Brandon Terpsma  
ブランデン・タープスマさん  
(アメリカ合衆国  
ネブラスカ州出身)  
田村市に来て3年目

田村は僕の故郷、ネブラスカ州を思い出させてくれます。思っていたより小さいけれど、生活するのに快適で、人々は好意的。ネブラスカ州では農業が生活の大部分を占めています。田村もいたるところに水田と畑があります。夜に星を見ることができると、すてきですね。

また、人々はとても優しく、温かく僕を迎えてくれました。田村はとても親切な人たちが暮らすコミュニティだと思います。

僕が英語を教えに行く船引南中学校でも、僕は同じ印象を受けました。去年の生徒数は約1000人、今年は約80人。ネブラスカ州のどの中学校よりも少ないですが、生徒一人ひとりをよく知ることができるので、とても気に入っています。



7月5日 船引南中学校

活動に一生懸命取り組んでいること。生徒が互いに気を配り、先生に敬意を表していること。子どもたちは学校を生活の大事な場所として尊重しています。が、そう教えていることが素晴らしいですね。授業を受け、部活動をし、帰宅してから宿題をする生活は大変だと思いますが、生徒はみんな、忙しそうに学校生活の中でも元気がいいのですから。

びっくりしたことも多々あります。お昼には、他の生徒の給食を取り分け、食後は片付けをすること。一日の終わりに生徒が学校を掃除すること。歩いて通学すること(アメリカではスクールバスや家用車で送迎するのが一般的です)。生徒が部活動に一生懸命取り組んでいること。生徒が互いに気を配り、先生に敬意を表していること。子どもたちは学校を生活の大事な場所として尊重しています。が、そう教えていることが素晴らしいですね。授業を受け、部活動をし、帰宅してから宿題をする生活は大変だと思いますが、生徒はみんな、忙しそうに学校生活の中でも元気がいいのですから。

## 海を越えて 英語指導助手ペンリレー No. 51 特別編

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていることなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

### 異文化に触れて

外国に移り住み、新しい文化に適應することは、決して簡単なことではありません。ですから、アメリカから日本の田園地域に行くことを決めた時、どんなことが待ち受けているか、私は想像すらできませんでした。

でも、田村市に来てみると、うれしい驚きの連続でした。まず、迎えてくれた人々がとても歓迎してくれていることを、肌で感じました。また、船引を含む田村の地域の、穏やかで静かな美しい自然は、私にとってとてもうれしいものでした。あれからもう1年以上たつのです。

私は今、市内のいくつもの幼稚園や小学校で英語を教えるという、すばらしい体験をしています。子どもたちはとてもかわいら



Kelly Anderson  
ケリー・アンダーソンさん  
(アメリカ合衆国  
ペンシルベニア州出身)  
田村市に来て2年目

しくて、とてもおもしろいですね。先生方はとても親切で、いろいろと協力いただいています。初めて教室の教壇に立った時はとても緊張しましたが、先生や職員の方々に会い、言葉を交わすにつれて、少しずつ緊張がほぐれていったのを覚えています。今では、楽な気持ちで子どもたちの前に立っています。

来日当初から周囲の人々に支えられていますから、私もできるだけ皆さんの役に立とうと思っています。それこそが、異なる文化の中で適應することではないでしょうか。一日も早く田村のコミュニティの一員になればうれしいですね。



7月6日 船引小学校